

新刊紹介

唯識論

廣瀬 文豪著

廣瀬氏は印度哲學專攻の士で、既に「佛教哲學論」や「解説方法論」等の名著を公にして居られる。本書は別名「唯識の思想及びその學」名づけてあり、世親菩薩造の唯識三十頌に對する著者の新研究を發表したものである。

元來佛教は宗教でもなく哲學でもない。唯解脱を得る爲の實踐的な教であるが、釋迦の歿後、その人格的追慕とその體驗内容を考察することによつて宗教と哲學とを生んだ。しかし如何に佛教が發達してもその現實性、實踐の意味を失はなかつた。宗教も哲學もその實踐的修行の方便としてのみ發達した。故に之を學びて見れば不徹底も混亂も存するのを免れない。唯識も矢張り、どこまでも實踐的な觀法を説いたものであるから、その中に認識論、形而上學、心理學等の考察を含んでゐるけれども、これらはまだ凡て包含的に取扱はれてゐる。故に之を純學的立場に立つ考へ方として見るのは危険である。寧ろ思慮に富んだ體驗者の常識的説明として見て行く方が適當である。故に單なる文句や章句に囚はれて輕卒に

學的概念の型に入れこむのは、唯識そのもの、解釋ではなく、既成の哲學思想を以て、唯識思想を變客するの弊に墮することになる。著者は此の立場を以て先づ唯識三十頌が如何なる心持で書かれたか、即ち唯識思想の企圖を述べ、第二に三十頌を過去の傳統的解釋に囚はれないで、すなほに見て一句一句順を追つて解釋を施してある。第三に以上の釋義を綜合して唯識學に組織的説明を與へよう試みてある。

惟ふに佛教經典の解釋にほゞ三つの立場がある。一は傳統的な解釋である。勿論これには長所もあるが、今日では餘り訓詁の末に走りすぎてゐる。第二は既成の哲學（殊に西洋哲學）の概念の型に佛教經典の語句を當てはめて研究する方法。これにも勿論長所はあるが、動もすれば佛教を本來の立場から引離す恐れがある。第三は佛教經典を先入の見なく如實に素直に讀んで行かうとする態度である。誰が考へても第三の立場が最も秀でた立場であるに違がない。只この立場は最も困難であるから、こもすれば、獨斷、誤解に陥る危険があらう。著者廣瀬氏は第三の立場を眞直に進まうとする人である。それだけ氏の立場が困難の大なる事は察せられる。願はくば益々勇氣を鼓して、大成を期し學界に貢獻せられんことを切望する次第である。（寶文館發行、四六版四四〇頁、定價

貳圓)(高橋記)

哲學とは何か 戸田三郎・坂田徳男・三木清共譯

本書は

1. Wilhelm Dilthey: Das Wesen der Philosophie, Gesammelte Schriften Bd. V.

2. Edmund Husserl: Philosophie als strenge Wissenschaft, Logos Bd. I.

3. Max Scheler: Vom Wesen der Philosophie und der moralischen Bedingung des philosophischen Erkennens: Vom Ewigen im Menschen, Bd. I.

につき三氏が分擔翻譯したものである。デイル・タイ・フツサール・シェーラーの三人の有力なる現代の哲學者が各々哲學の本質について語る内容は、やがて三人の學者の各々の哲學の集約されたる内容を語るものであるからこの三論文によつて現代に最も影響を多く與へてゐる哲學を理解する入門ともなるであらう。この書はこの點に於て存在を持つものである。(鐵塔書院發行、四六版三七五頁定價貳圓參拾錢)

彙報

一一一

印度佛教學會

去る五月七日水曜日夜樂友會館に於て左の講演があつた。

増一部に於ける十種教團

羽溪 了諦氏

社會學讀書室

去る四月三十日水曜日夜樂友會館に於て新任講師岩崎壯一氏の歡迎會を開きその後岩崎氏の左の講演あり。

社會學の領域

岩崎 壯一氏

五月七日水曜日夜樂友會館に於て次の講演あり。

Innere Kindung

庄 靜夫氏

教育研究會

去る五月十四日水曜日夜學生集會所に於て新入學生の歡迎を、左記の講演會を開く。

教育家としての吉田松陰

後藤 三郎氏

美學會

去る五月六日火曜、大津市三井寺に參拜し、會員一同結緣灌頂を受けて、秘佛黄金不動明王外寶物を拜觀す。